

差別や偏見のない未来

中一

私は「吃音」という障害があります。吃音は、二歳四歳の子供二十人に一人、大人になつても百人に一人の割合で見られ、決して珍しい障害ではありません。この吃音という症状は、言葉が円滑に話せない障害で、話を始めるときの最初の一音が詰まつたり、同じ音を繰り返したりする言語障害の一つなのだそうです。私は七歳のときに気付きました。

最初のうちは、気のせいかなという感じでしたが、毎日のように症状が出ていたので、さすがにおかしいと思いました。日頃から出ていましたが、特にみんなの前に出ると大変目立っていたので、周りの子から、

「変なの、バカじやないの。」

「しつかり喋れよ。」

とバカにされることもありました。心ない言葉を言ってくるのは一部の子でしたが、私は深く傷つきました。自分の中で不安に思つて

いたことを嫌な言葉で責められ、心がえぐられる思いでした。家に帰り、母の前で大泣きしながら悔しい気持ちをぶつけたことを今でも覚えていました。母は全部受け止めてくれた後、私にある話をしてくれました。

実は、母はもつと前から私の吃音に気付いていました。自分では七歳からと思っていましたが幼稚園の年中頃から少しずつ出始めましたと話してくれました。今だけなのか、この先ずっと続くのか分からなければ、吃音のことについていろいろ調べていたとのことでした。そして、幼稚園の先生と連携して見守つてくれていたこと、小学校の先生にも報告してあることを、このとき初めて知りました。私に言わなかつたのは、いつか自分で気付く日が来るから、それまでのびのびとさせてあげよう、そのときが来たら、全てを受け止めた上で、希望に合うようにしてあげようと考えてくれていたようです。

辛い出来事の後、自分の目できちんとみてごらんと母から言われ、私はインターネットで吃音について調べてみました。珍しくない障害なのに、世の中ではまだ理解されづらい面があるため、笑

われたり、からかわれたり、ときには理不尽に怒られることもあり、生きづらさを感じている人も多くいると書かれてありました。驚いたのは、有名人にも吃音障害の人がたくさんいることです。俳優や司会者など、私の知っている人もいました。人前に出ることを仕事にしていて、すごいなと思いました。

この頃、吃音に悩む子供同士がふれあいながら学べる「ことばの教室」の存在を知り、週に一回、一時間だけですが通つてみました。ここには、悩みを聞いて指導してくださる専門の先生がいて、月に一度グループ学習があります。吃音症の子供十名位でゲームや買い物、料理をしたり、みんなの前で特技を披露し合つたり、たくさん人の交流がありました。交流していくうちに、「この子たちも私と同じ思いをしているんだ」「吃音症でもみんな頑張っているんだ」と思うことができました。近場の小学校だけでもこれだけいるのだから、日本全体だとどれだけたくさんの人が苦しんでいるのだろう、などと考えるよい機会になり、自分だけじゃないんだという支えになりました。ここに通つた二年間は、今でも励み

になっています。

その後の私は、母と相談して自分の中にルールを決めました。それは、もし誰かにひどいことを言われたら、まず自分でやめてほしいと伝えるということです。真剣に伝えれば、きっと分かつてもらえると思うからです。それでもやめてもらえたかったら、そのときはすぐに学校の先生に伝え、力を貸してもらおうと思つています。これを決めたことで、だいぶ心が楽になりました。

私は、吃音障害があるからといって、話さなくなったり、何も伝えなくなつたりといふことは絶対にすべきではないと思います。胸を張れるかは分からぬけれど、私は吃音症であることを隠したいありません。だからできれば周りの人たちには、障害ではなく個性の一つとして受け入れてもらいたいです。特別扱いではなく、ごく普通に接してもらえるなら一番いいなと思います。こういう理解が進んだら、とても嬉しいです。

最後に私が願うのは、簡単に人の心を傷つけるような人間が少しでも減ることです。ニュースなどで、いじめや戦争の記事を見るたびに心が痛みます。たとえ直接手や口を出さなくても、イン

ター ネット上で の 発言、 匿名で の 中傷など、 簡単に 人を 傷つける こと が でき て し ま い ます。 私は 決して そ う は し た く あ り ま せ ん。 できるなら 傷つけられた 側 の 人 を 助け られる ような 人間 で あり たい です。 私には い つ も 支え て くれ た 家族や 先生、 仲間 が い る の で、 そ の 人た ち を 見習 つて、 憧ん で いる 人 の 力 に な り た い と 思 い ま す。 吃音だけに 限ら ず、 あ ら ゆる 差別や 偏見も な い、 周りの 人を 思 い やれ る ような、 心ある 未 来を 創り たい です。